

J.LEAGUE™ NEWS

©J.LEAGUE PHOTOS



試合終了後、復興支援のバナーとともに記念撮影を行った両チームの選手たち。この後、バナーを携えて県立カシマサッカースタジアムの場内を一周した

「東日本大震災復興支援 2012 Jリーグスペシャルマッチ」を開催

昨年3月11日に発生した東日本大震災からの一日も早い復興を願うJリーグは、その支援活動の一環として7月21日、県立カシマサッカースタジアムで「東日本大震災復興支援 2012 Jリーグスペシャルマッチ」を開催した。被災地のJ1クラブであるベガルタ仙台、鹿島アントラーズの選手、東北地方出身選手、さらに海外からのゲスト選手を加えた「Jリーグ TEAM AS ONE」が、仙台、鹿島を除くJ1の16クラブから選出された選手で構成する「Jリーグ選抜」と対戦。また、試合日のみならず、その前後にもスタジアムを中心にさまざまな催しが行われ、復興支援を推進した。(2～3ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

Calbee

Canon

KONAMI

AIDEM

Coca-Cola



J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER

朝日新聞

J.LEAGUE™ FAIRPLAY PARTNER

東京エレクトロン

LEAGUE CUP SPONSOR



SUPER CUP SPONSOR



J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER



J.LEAGUE™ OFFICIAL SUPPLIER



J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER



SPORTS PROMOTION PARTNER



J.LEAGUE™ OFFICIAL TICKETING PARTNER





JリーグTEAM AS ONEのキャプテンを務めた小笠原(左)が、Jリーグ選抜の前田からスライディングでボールを奪う

復興支援の思いを新たに。 Jリーグは「決して忘れない」

JリーグTEAM AS ONEに加わった元イタリア代表の名手、デル・ピエロ。柔らかいボールタッチでスタンドを魅了し、得点もマーク。試合後には「すごくいいパワーをたくさん与えられたのでは」と笑顔

被災地の小中学生を招待

東日本大震災が発生した直後から、Jリーグ、Jクラブ、選手・スタッフらは、復興支援活動に携わってきた。とはいえ、その被害はあまりにも甚大で、震災以前の生活に戻れない人々が数多く存在する。発生から16カ月以上が経過するも、前途には難問、課題が山積している。

一方、厳しい状況にあっても、被災した人々、地域は未来に希望を見いだそうと、歩み始めている。地域によって支えられているJリーグ、Jクラブは、こうした動きを微力ながらもサポートすべく、「決して忘れない」(大東和美 Jリーグチェアマン)という継続的な復興支援への強い姿勢を打ち出している。その一環として実現したのが、今回の「東日本大震災復興支援

2012 Jリーグスペシャルマッチ」だった。

試合には、日本サッカー協会名誉総裁を務める高円宮妃殿下のご臨席を賜り、橋本昌 茨城県知事、大仁邦彌 日本サッカー協会会長も訪れた。また、Jリーグと一般社団法人 Jリーグ選手OB会は、被災地の岩手、宮城、福島各県から計131人の小中学生を招待。JリーグTEAM AS ONEのMF小笠原満男(鹿島アントラーズ)、Jリーグ選抜のFW佐藤寿人(サンフレッチェ広島)による復興支援宣言、震災の犠牲者に対する黙とうの後、試合が始まった。

復興へのパワーになると信じて

Jリーグ TEAM AS ONEに加わったゲスト選手の元イタリア代表、MFアレックスandro

デル・ピエロは、華麗なボールさばきや絶妙のパスを披露した。後半にはミドルシュートを決めて、期待に応えた。鹿島でのプレー経験が長かったベガルタ仙台のFW柳沢敦の果敢なシュートには、両クラブのサポーターが陣取ったホーム側ゴール裏スタンドから「ヤナギサワ」コールが沸き起こった。小笠原も気迫のこもったボール奪取を見せるなど、「きょう、示すパワーが復興に向けたパワーになると信じて、心に刻んで戦おう」(手倉森誠監督)と臨んだJリーグTEAM AS ONEが4-0と勝利した。

一方、Jリーグ選抜もMFのレアンドロ・ドミンゲス(柏レイソル)、中村俊輔(横浜F・マリノス)、遠藤保仁(ガンバ大阪)、小野伸二(清水エスパルス)らの名手が巧みなパスワークで得点チャンスを演出するなど、スタンドを沸かせた。44歳のFW中山雅史(コンサドーレ札幌)も大きな拍手に迎えられて86分に交代出場し、見せ場をつくった。

試合後、小笠原は「非常にいい雰囲気の中で試合ができて、クラブに関係なく一体感が持てた。これで終わりではなく、Jリーグやいろいろな方々の協力を得ながら、今後も続けていけるようにしたい」と述べ、佐藤も「こういう場を持つことで、被災地に目を向けてもらうきっかけになる」と、試合の意義を語った。

Jリーグで活躍する選手らが被災したスタジアムに集い、それぞれが復興支援への思いを表現した一戦。「(東日本大震災が発生した)2011年を忘れてはいけない」(手倉森監督)という思いを、あらためて強くした試合だった。



©J.LEAGUE PHOTOS

ホーム側ゴール裏スタンドには大多数の鹿島サポーターに仙台のサポーターも加わり、温かい声援で試合を盛り上げた



©J.LEAGUE PHOTOS

試合終了後、選手たちは被災地応援メッセージフォトフラッグも掲げて場内を一周



仙台の柳沢(右)は古巣のサポーターの声援も受けて果敢にゴールを狙った。左はJリーグ選抜の田中マルクス闘莉王(名古屋)



キックオフ前にJリーグ選抜の中山(札幌)を激励する大東チェアマン

大東 和美 Jリーグチェアマン コメント

試合前のさまざまなイベントや地元の子供たちによる国歌斉唱、そして素晴らしい試合、皆の思いが伝わるいいスペシャルマッチになったと思う。何よりも出場をお願いした選手たちが皆、快諾してくれ、きょうにつながったことにチェアマンとして選手たちを誇りに思う。

試合展開は、ベガルタ仙台の好調さがそのままTEAM AS ONEの勢いにつながっているような気がしたが、試合全体の印象としては、積極的にゴールを狙い続けたアグレッシブな試合で、観客の皆さんも大いに楽しんでもらえたと思う。アレックスandro デル ピエロ選手はさすがイタリア・セリエAのスター選手だというプレーに加え、素晴らしいゴールを挙げたことで県立カシマサッカースタジアム全体を魅了してくれた。そして、何よりもこの試合の意義を理解してくれて、遠くイタリアの地から来てくれたことに心より感謝したい。

われわれは東日本大震災に対して、「決して忘れない」という強い思いを持って、今後もこういった日本を元気づけるような試合をしたいと思う。



2012年7月21日 19:01キックオフ 県立カシマサッカースタジアム
Jリーグ TEAM AS ONE 4 0 Jリーグ選抜

【得点経過】 【入場者数】2万3760人
 36分 1-0 (T) 梁 勇基 【主審】岡部 拓人
 70分 2-0 (T) アレックスandro デルピエロ 【副審】宮島 一代
 71分 3-0 (T) 赤嶺 真吾 大友 一平
 85分 4-0 (T) 太田 吉彰 【第4の審判員】佐藤 誠和

主催：公益財団法人 日本サッカー協会 / 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
 共催：一般社団法人 日本プロサッカー選手会 / 一般社団法人 Jリーグ選手OB会 / 株式会社TBSテレビ
 主管：公益社団法人 日本プロサッカーリーグ / 財団法人 茨城県サッカー協会
 運営協力：鹿島アントラーズ
 協賛：株式会社コナミデジタルエンタテインメント / 日本コカ・コーラ株式会社 / 朝日新聞社 / 東京エレクトロン株式会社 / ほけんの窓口グループ株式会社 / ハイアールジャパンセールス株式会社
 協力：アディダス ジャパン株式会社 / 株式会社モルテン / 株式会社コナミ デジタルエンタテインメント / 株式会社ジェイリーグエンタープライズ / Jリーグフォト株式会社

参加選手リスト(☆:サポーター投票選出選手)

| Jリーグ TEAM AS ONE | Jリーグ選抜 |
|-----------------------------|------------------|
| 監督 手倉森 誠(仙台) | 監督 ネルシーニョ(柏) |
| ヘッドコーチ ジョルジーニョ(鹿島) | ヘッドコーチ 井原 正巳(柏) |
| GK 林 卓人(仙台) | GK 菅野 孝憲(柏) |
| 飯倉 大樹(横浜FM) | 東口 順昭(新潟) |
| DF 渡辺 広大(仙台) | ☆ 榑崎 正剛(名古屋) |
| 西 大伍(鹿島) | DF 楨野 智章(浦和) |
| 岩政 大樹(鹿島) | 橋本 和(柏) |
| 新井場 徹(鹿島) | 井川 祐輔(川崎F) |
| ☆今野 泰幸(G大阪) | 栗原 勇蔵(横浜FM) |
| ※宮城県出身 | ☆中澤 佑二(横浜FM) |
| MF 梁 勇基(仙台) | 駒野 友一(磐田) |
| 太田 吉彰(仙台) | ☆田中 マルクス闘莉王(名古屋) |
| 菅直 直樹(仙台) | 田中 隼磨(名古屋) |
| ※山形県出身 | MF 柏木 陽介(浦和) |
| 中田 浩二(鹿島) | カルリーニョス(大宮) |
| 遠藤 康(鹿島) | レアンドロ ドミンゲス(柏) |
| ※宮城県出身 | 高橋 秀人(F東京) |
| 本山 雅志(鹿島) | ☆中村 俊輔(横浜FM) |
| 柴崎 岳(鹿島) | 小野 伸二(清水) |
| ※青森県出身 | ☆遠藤 保仁(G大阪) |
| ☆小笠原 満男(鹿島) | 柿谷 曜一朗(C大阪) |
| ※岩手県出身 | FW ☆中山 雅史(札幌) |
| 高萩 洋次郎(広島) | 原口 元氣(浦和) |
| ※福島県出身 | 田中 順也(柏) |
| アレックスandro デルピエロ(特別参加、イタリア) | ☆前田 遼一(磐田) |
| FW 柳沢 敦(仙台) | ☆佐藤 寿人(広島) |
| 赤嶺 真吾(仙台) | 豊田 陽平(鳥栖) |
| 大迫 勇也(鹿島) | |
| 興梠 慎三(鹿島) | |
| 茂木 弘人(神戸) | |
| ※福島県出身 | |

7月6日の出場選手発表後、Jリーグ TEAM AS ONEのGK曾ヶ端 準(鹿島)、DF角田誠(仙台)、MF関口訓充(仙台)、Jリーグ選抜のMF中村憲剛(☆、川崎F)がけがのために出場を辞退。曾ヶ端に代わって飯倉、関口に代わって太田、中村憲に代わって井川が選出。角田は代替選手なし。菅野が新たに選出された。



Jリーグ特命PR部女子マネージャーの足立梨花さん(中央)も募金への協力を呼び掛けた



選手たちによる復興支援活動を伝える写真展にも多くの人が足を止め、熱心に見入っていた

スタジアムを中心に多彩な催しを実施

試合当日、その前後にはスタジアムを中心にさまざまな催しが行われ、復興支援を後押しした。7月20日の試合前日公式練習の際には、参加全選手による募金活動を実施。試合当日の来場者を対象としたスタッフによる同活動と合わせて248万8854円が集まり、被災地の限られたスペースでサッカーをしている子どもたちが少しでも長い時間、プレーできるよう、簡易照明購入に充てられる予定。岩手、宮城、福島の3県から招待された131人の小中学生は同22日、Jリーグが協力した「Jリーグスペシャルマッチ被災地招待者との交流会」(主催：一般社団法人 日本プロサッカー選手会)で、スペシャルマッチ出場選手たちと交流した。一方、試合当日にはJリーグと一般社団法人 Jリーグ選手OB会が岩手県、宮城

県、福島県でJリーグOB選手による被災地サッカー教室を実施した。

試合日のスタジアムコンコースでは、Jリーグトップパートナーのキャンノンマーケティングジャパン株式会社の協力による写真展が開催され、多くの人が選手などによる復興支援活動の様態を伝える写真に見入っていた。宮城県・茨城県物産展では、それぞれの名産品を求めて長蛇の列。各ゲートでは、Jリーグトップパートナーのカルビー株式会社、リーグカップスポンサーのヤマザキナビスコ株式会社、今大会協賛のハイアールジャパンセールス株式会社の協力により、入場者にお菓子、エコバッグをプレゼント。被災地応援メッセージフォトフラッグの受け付けも行われた。茨城県のゆるキャラも大集合し、会場を盛り上げた。



試合前日、全選手が参加して行われた募金活動



選手たちは大会記念グッズ販売による復興支援活動にも協力



試合翌日には招待された小中学生が選手と交流。参加者には株式会社モルテンより一人に一つのボールがプレゼントされた

Jクラブと歩む「地域」「ひと」

29

セレッソ大阪



育成組織の支援を通し、クラブとサポーターが成熟した関係で結び付く

クラブと会員が互いにリスペクト

ロンドンオリンピックのサッカー男子、U-23日本代表に選ばれたセレッソ大阪の山口螢、扇原貴宏、杉本健勇は、いずれも同クラブのユースチーム出身だ。「育成型クラブ」を掲げ、次々と将来性の高い若手を生み出すセレッソの育成組織（ユース、ジュニアユース、ジュニア）。若い選手たちを陰で支えているのが「ハナサカクラブ」だ。

ハナサカクラブとは育成組織の合宿や遠征、食事などの費用を補助する協賛会。1口3千円で個人、法人、団体、店舗が対象となっている。ファンクラブとは異なり、クラブとともに長期的な視野で、育成組織を支援することが目的となっている。実際、会員にとって目に見える形の特典は1口につき、1個贈られるセレッソ大阪のユニフォーム型のオリジナルピンバッジのみ。それでも、会員からは「ピンバッジももったいない。その費用の分で選手たちに牛乳を飲ませてあげてほしい」という声なども寄せられるという。

会員向けに年1回総会が開かれ、ハナサカクラブの会長を務めるセレッソ大阪OBの森島寛晃氏や育成組織の監督らが直接、1年間の成果や会計報告、来年度の方針などを説明する場を設けている。セレッソ大阪の宮本功育成部長は「クラブと会員が互いにしっかりリスペクトし合っているからこそ成り立っている制度」と強調する。クラブとサポーターが成熟した関係で結び付くことを目指している。

子どもたちの成長を喜ぶ

ハナサカクラブが発足したのはチームがJ2だった2007年。趣旨への理解を求めため、クラブ幹部が各所に入会をお願いに回ったが、経済不況に加え、チームの成績が落ち込んでいる状況だっただけに難航した。そんな中、真っ先に賛同してくれたのが「樋口物流サービス」（大阪府東大阪市）の樋口修一朗社長だった。

会員番号1番の樋口氏は「私自身もサッカーをしていたこともあり、裾野を広げる育成が大事という趣旨に共感した」と100口に応募。有望な若手の活躍もあって、徐々にチームの成績も向上し、10年にJ1復帰。支援の輪は広がり、初年度は約150人だった会員数は現在、約3,500人。ハナサカクラブからの支援を受け、昨年度は15歳以下（U-15）韓国遠征、18歳以下（U-18）フランス遠征など、育成組織も積極的に海外遠征に出られるようになった。会員数が増加した要因について、樋口氏は「わがまちでサッカーに熱心に取り組む若い子どもたちを育てて、その成長を喜ぶという、大阪の人の独特な優しさが、制度が根付いた要因ではないだろうか」と分析している。



樋口修一朗氏



セレッソ大阪が大阪・舞洲に整備を進めているクラブハウスの完成予想図。ハナサカクラブが応援する育成年代の練習拠点となる。桜の木を植樹する計画もある ©OSAKA F.C.

選手との一体感を味わう

さらに一步進めた取り組みとして、注目を集めるのが「ハナサカプレーヤー」だ。登録料金3万円で、50～999番の中で希望した背番号と登録名が記された、選手が主催試合で実際に着るものと同じ型のユニフォームが手に入る。また、チームの公式ホームページでは、選手・スタッフとともにハナサカプレーヤーの背番号と登録名で同じページに記され、一体感を味わうことができる。プレーヤー数は増加傾向にあり、現在約170人。クラブ、選手とサポーターとの間の結束力を強める一助となっていることは間違いないだろう。宮本氏は「ハナサカクラブを幹として取り組みをどんどん広げていきたい」と話している。

（産経新聞社 北川 信行）



ことし1月に実施したU-18のフランス遠征。ハナサカクラブの支援を受けて、育成組織の選手たちも海外遠征のチャンスをつかんでいる

©OSAKA F.C.

「豊かで充実したスポーツ環境を実現し、地域に根差したスポーツクラブを中心に、日本にスポーツ文化を育む」ことを目指す「Jリーグ百年構想」のもと、Jクラブはそれぞれのホームタウンを中心に、さまざまな取り組みを行っている。そして、Jクラブの存在、活動は、地域とそこに暮らす人々に影響、刺激を与え、新たなムーブメントを生んでいる。Jクラブと手を携えながら、ともに歩む人々や、その活動を紹介するこのシリーズ。今号ではセレッソ大阪、栃木SCと連携した地域の取り組みにスポットを当てた。



30

栃木SC



地域密着の精神が次第に浸透。 地道な活動をクラブの推進力に



地元タウン誌とのタイアップによって、盛り上がりを見せたフリーマーケット

サポーターの熱い思い

「J1へ」をスローガンに掲げ、4年目のJリーグを戦う栃木SC。J1昇格を現実のものとするためには、リーグ成績と同様に地域との強い「絆」の構築も欠かせない。今シーズン、チームは春から例年になく精神的に事業を展開し、地域におけるクラブの存在価値を高めている。

6月17日の第20節、横浜FC戦。ホームスタジアムとなる宇都宮市の栃木県グリーンスタジアム。試合前、入場ゲートを入ったフードゾーンの一部に見慣れない小さな店が軒を連ねた。

チームと地元タウン誌が組んで初めて開催した「第1回栃木SCフリーマーケット」で、県内から約10店舗の出店があった。店頭には並んだものは、サッカー用品ばかりでなく古着、玩具、小物類までさまざま。Jリーグの試合とフリーマーケットのコラボという物珍しさも手伝って、キックオフ1時間ほど前から、入場者が店先で足を止め、商品を品定めする光景が見られた。

そこで出店者の一人となったのが、日ごろはボランティアスタッフとしてホームゲームを支える青柳忠典さん。青柳さんはJFL時代から栃木SCを応援するようになり、2年前に「単なる応援とは違う関わり方でクラブを支えたい」との思いから、ボランティアスタッフの道へ入った。ホームゲームでは会場案内などでクラブをサポートする。

この日、青柳さんは自宅で眠っていた古着な

どを店先に並べ、慣れない接客に汗を流した。

「いつもとは違った立場でホームゲームの雰囲気づくりに参加したかった」。観客からボランティアスタッフへ、そして最後は主体的にホームゲームを盛り上げるイベントの参加者へ。青柳さんのようなサポーターの熱い思いが、今、少しずつ周囲に広がり始めている。



青柳忠典氏

深い結び付きを求める活動

一方、2008年からスタートした高齢者のための健康の維持促進講習会「いきいき健康サッカー教室」も地域に定着しつつある。宇都宮市からの受託事業で、こしは6月29日に宇都宮市清原体育館で第1回の教室を開催した。チームからは松田浩監督やDF大和田真史、MF菅和範、GK武田博行など主力クラスの選手が参加。約2時間、体操やサッカーを通して高齢者約20人と交流した。

フィジカルコーチらを指南役に行った前半のストレッチ運動も、後半のサッカー体験も高齢者には好評。松田監督や選手たちも、メニューに沿って丁寧に高齢者をサポート、会場には参加者の笑顔があふれた。70歳の稲毛加代子さんはチームのレプリカユニフォームを着て参加。

「昨年から参加していますが、毎回楽しみにしています。今では栃木SCの試合も見られるようになりました。娘や孫たちはシーズンパスを買って応援も行っているんですよ」と笑顔で話した。



稲毛加代子氏

また、3月10日には宇都宮市内にサポーターの交流やチームの情報発信などを行う多目的空間もオープン。その建物はクラブマスコットにちなみ、「トッキースクエア」と名付けられた。

市内大通りに面する一等地のテナントビルを活用。ビルの外壁も、「街中のスタジアム」をイメージしてクラブカラーのイエローに塗り替えられた。「栃木SCをより身近に感じてほしい」（中津正修（株）栃木サッカークラブ代表取締役社長）との思いが具現化したもので、オフィシャルグッズが並ぶショップ機能も併せ持つ。時には選手がそこを訪れサイン会なども行っている。

さらに7月10日には、Jリーグが目指す「豊かなスポーツ文化振興」などを目的に、宇都宮市を拠点に活動する自転車のプロロードレースチーム「宇都宮ブリッツェン」とも協力協定を結んだ。今後、栃木県や宇都宮市の地域活性化にタッグを組んで取り組む予定で、関係者からは期待が集まっている。

栃木SCが行動で示す地域密着の精神は、シーズン4年目を迎え次第に地域に浸透してきた。クラブが地域を支え、地域がクラブを支えるという関係は一朝一夕には出来上がらない。栃木SCのこれらの地道な活動が、近い将来、J1への推進力になるに違いない。

（下野新聞社 桜井 誠）



いきいき健康サッカー教室では主力選手も参加し、高齢者の健康づくりに一役買った

2012 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ 20回目の大会。いよいよ決勝トーナメントがスタート

20回目の開催となる「2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ」は、6月27日に予選リーグが終了し、決勝トーナメントを戦う8チームが出そろった。準々決勝進出チームの決定が第7(最終)節までもつれ込んだ予選リーグAグループは、セレッソ大阪が1位、ベガルタ仙台が2位で突破。同Bグループは、第6節で清水エスパルス、鹿島アントラーズの勝ち抜きが決まっていた(前号既報)。この4チームに、AFCチャンピオンズリーグ2012出場で予選リーグをシードされた柏レイソル、FC東京、名古屋グランパス、ガンバ大阪の4チームが加わり、ホーム

& アウェイによる準々決勝が開催される。

また、決勝トーナメントの大会プロモーションとして「JOIN! CUP UP! キャンペーン」がスタート。ファン・サポーターがチームと一緒にトーナメントを勝ち上がる喜びや厳しさを感じてもらうための企画で、応援しているチームが決勝進出を決めた場合、抽選で両チームから10組20人ずつ(計40人)を11月3日(土・祝)に国立競技場で開催予定の決勝に招待するという特典がある。詳しくは以下のキャンペーン特設サイトを参照。http://www.j-league.or.jp/yncup/roadtothecup/

一方、ヤマザキナビスコカップで恒例となっている「ニューヒーロー賞」は、予選リーグ終了時点における得票上位選手10人を発表した。上位には、予選リーグ最終節で2得点を挙げたMF柿谷曜一朗(C大阪)、FW大迫勇也(鹿島)が新たに加わった。準々決勝から予選リーグシードの4チームが登場し、得票ランキングがどのように変動するか注目される。同賞は本大会において活躍が顕著な23歳以下(大会開幕時)の選手を対象に、予選リーグから準決勝までの各試合会場において実施する報道関係者の投票を基に決定される。



キャンペーンのキービジュアル

2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝トーナメント 組み合わせ

※表の左側のチームをホームチーム扱いとする。(表の右側のチーム：第1戦ホームチーム/左側のチーム：第2戦ホームチーム)



2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ ニューヒーロー賞 得票上位選手10人

(予選リーグ第7節終了時)

| 選手名 | 所属 | グループ | ポジション |
|--------|------|------|-------|
| 榊 翔太 | 札幌 | B | FW |
| 武藤 雄樹 | 仙台 | A | FW |
| 大迫 勇也 | 鹿島 | B | FW |
| 小島 秀仁 | 浦和 | A | MF |
| 矢島 慎也 | 浦和 | A | MF |
| 齋藤 学 | 横浜FM | B | FW |
| 石毛 秀樹 | 清水 | B | MF |
| 山田 大記 | 磐田 | A | MF |
| 柿谷 曜一朗 | C大阪 | A | MF |
| 清水 航平 | 広島 | A | MF |

※得票順ではありません。

2012 Jリーグ J1昇格プレーオフ決勝および J2・JFL入れ替え戦第1戦の日程変更

Jリーグは7月23日に開催した理事会で、2012 Jリーグ J1昇格プレーオフ決勝およびJ2・JFL入れ替え戦第1戦の日程を変更することを承認した。また、J1昇格プレーオフ決勝の開催会場およびTV放送についても、下記の通り決定した。

2012 Jリーグ J1昇格プレーオフ 決勝 日程変更・会場・TV放送決定

| 開催日 | キックオフ | 対戦カード | 会場 | TV放送 |
|-------------|-------|--------------------|---------------------|--------------------|
| 11月25日(日) | 未定 | 未定 (準決勝 11月18日) | 中立地開催 ↓ 国立競技場 | 未定 ↓ NHK BS1 |
| 11月23日(金・祝) | | | | |

2012 Jリーグ J2・JFL入れ替え戦 第1戦 日程変更

| 開催日 | キックオフ | 対戦カード | 会場 | TV放送 |
|-------------|-------|-------|--------------------|------|
| 11月23日(金・祝) | 未定 | 未定 | JFLクラブ ホームスタジアム | 未定 |
| 11月25日(日) | | | | |

※ J1昇格プレーオフとJ2・JFL入れ替え戦は、対象クラブのライセンス条件などにより、開催しない可能性があります。

Jリーグ準加盟審査結果について

Jリーグは7月23日に開催した理事会で、Jリーグ準加盟申請について審議した結果、AC長野パルセイロのJリーグ準加盟を承認した。クラブの概要については、下記の通り。

(敬称略)

| AC長野パルセイロ | |
|-----------|---|
| 法人名 | 株式会社 長野パルセイロ・アスレチッククラブ 代表取締役社長:小池 睦雄 |
| 所在地 | 長野県長野市屋島 3300 |
| 所属リーグ | 日本フットボールリーグ(JFL) |
| ホームタウン | 長野県長野市 |
| ホームスタジアム | 南長野運動公園総合球技場 |

【参考】現在のJリーグ準加盟クラブ

- V・ファーレン長崎(2009年2月~)
- S.C. 相模原(2010年2月~)
- カマタマーレ讃岐(2011年2月~)

第16回電動車椅子サッカー関東大会を後援

Jリーグは7月23日に開催した理事会で「第16回電動車椅子サッカー関東大会」(2012年9月1日(土)に八千代市立市民体育館で開催。主催:関東ブロック電動車椅子サッカー協会、八千代市サッカー協会)を後援することを決定した。同大会は、電動車椅子サッカーの競技普及を進めるとともに、参加チームの技術向上と交流を図ることを目的に開催されている。

